

編 集 後 記

今回は特に中身の濃い島根医学である。新進気鋭の秋山先生の最新の脳血管内ステント治療の解説に続いて、長年病理学研究に打ち込んでこられた原田先生によるルネッサンス時代の Vesalius, 江戸時代の華岡清州から病理学関係のノーベル賞の逸話と続く病理学の歴史は読み応えのある内容である。アポトーシスが秋に木の葉が散るような死という意味で3人の病理学者によって「apoptosis:ギリシア語で falling off」と名付けられたことや, Helicobacter pylori が1906年にすでに病理学者によって発見されていたことなど, まさに新発見の知識が詰まっている。ライノウイルス感染も内科医にとっては新鮮な知識である。簡便なチェックシートによる県内の糖尿病性神経障害の実態調査は誰にでも実施可能で合併症を早期発見する上でも有用である。現在同様の簡便な問診表によるパーキンソン病調査も難病協議会によって実施中である。メタボリックシンドロームの特定保健指導に関する塩飽先生の論文は医師会説明会で分かりにくい内容を理解する上で参考になる。胃瘻設置患者における胃食道逆流予防に対する固形化経腸栄養剤の検討も療養型病床などでは役立つ報告である。高齢にも負けず介護保険施設におけるパルスオキシメトリの検討を書かれた小林真佐夫先生には頭が下がる。これがアンチエイジングの秘訣であろうか。また, 最近, 大学病院心臓血管外科に通って再チャレンジしている長見先生の立て続けの投稿にも感心している。モチベーションが上がるとかくも元気になるかという見本である。島根医学も大分元気になってきた。

(S.K.)

島根医学編集委員

沖田 瑛一, 西野 泰生, 武田 博士, 伊藤 是衛, 葛尾 信弘,
 児玉 和夫, 益田 順一, 信太 秀夫, 岩本 正敬, 佐藤 比登美,
 中川 正久, 小林 祥泰, 徳島 武

島 根 医 学

平成19年9月30日発行

発行者	島 根 県 医 師 会
編 集	浜田市蛭子町 編集者 沖 田 瑛 一
発行所	松江市学園南2丁目3番11号 有限会社 松 陽 印 刷 所